

11 歯科口腔外科

連絡先:075-751-3349(病棟)
075-751-3729(外来)

■診療科の特徴

摂食、咀嚼、嚥下、構音、会話に代表される口腔機能は医学的ならびに社会的生命活動に必須の機能です。様々な疾患によりこれらは障害を受けることとなります。本院では特定機能病院の歯科口腔外科として、重度の障害を呈する疾患、即ち口腔腫瘍、顎変形症、顎関節症、歯槽堤萎縮症、睡眠時無呼吸症候群、舌痛症などに対して高次で高度な医療を提供しています。



歯科口腔外科長
別所 和久

■代表的診療対象疾患

顎変形症(下顎前突症・下顎非対称・小下顎症、他)、口腔腫瘍(白板症、他)、顎顔面骨骨折、顎堤萎縮症(インプラントによる再建)、顎関節症、睡眠時無呼吸症候群、舌痛症など。

■診療体制と実績

1) 外来診療体制と実績

平成20年度の新患は3,173名であり、患者紹介率は約48.4%であった(表1-1)。一般歯科口腔外科診療に加えて、専門外来として組織再生インプラント外来、口腔腫瘍外来、顎関節外来、顎矯正外来、顎顔面骨折外来、睡眠呼吸障害外来、審美歯科外来がある(表1-2)。平成18年度より口腔心身症などの治療を行う口腔難治性疾患外来、口蓋裂児に対する口蓋床(Hotz床)装着と口腔管理を行う唇顎口蓋裂補綴外来を新設し、平成19年度より患者の審美的な改善に対する要求の高まりから審美歯科外来を新設した。

代表的対象疾患別の新患数では智歯周囲炎が648名と多く、顎関節症、口腔腫瘍、顎変形症、舌痛症、睡眠時無呼吸症候群、顎顔面骨骨折と続いている(表1-3)。また顎顔面の腫瘍切除後、外傷あるいは先天性の欠損に対して、インプラントを応用したエピテーゼの作製を行っており、平成18年12月に先進医療として承認された。

外来処置室では抜歯手術などを年間546件実施し、またデイサージャリー部門では積極的に日帰り手術を行っており(一部は短期入院)、昨年は826件の手術を担当した(表1-4)。

●表1-1 外来診療統計(人)

新患総数	3,173
受診総数	21,821
新患率	14.5%
患者紹介率	48.4%

●表1-2 専門外来の診療統計(人)

組織再生インプラント	780
口腔腫瘍	382
口腔難治性疾患	210
睡眠呼吸障害	203
顎関節	149
唇顎口蓋裂補綴	31
顎矯正	17
審美歯科	36

●表1-3 代表疾患別の外来診療統計(人)

智歯周囲炎	648
顎関節症	377
口腔腫瘍	183
顎変形症	103
舌痛症	62
睡眠時無呼吸症候群	43
顎顔面骨骨折	20

●表1-4 日帰り手術統計(件)

抜歯、埋伏歯など	669
インプラント関連手術	53
腫瘍切除/摘出術	44
嚢胞摘出/歯根尖切除術	43
顎堤形成術	2
顎骨骨折関連手術	4
その他	11
計	826

2) 入院診療体制と実績

当診療科は20床の病床を有し、昨年度は374例の入院加療を行い、213件の中央手術を行った(表2)。このうち主要な手術件数では顎骨嚢胞36例、口腔腫瘍33例、顎変形症31例、その他と続いている(表3)。

●表2 入院統計

年間入院症例	374(例)
年間延べ入院患者数	5,337(例)
年間手術件数	213(件)
平均在院日数	14.27(日)

●表3 主要疾患年間入院手術件数

顎骨嚢胞	36(件)
口腔腫瘍	33
顎変形症	31
顎骨骨折	14
顎関節疾患	9

■診療内容の特徴と治療実績

1) 口腔腫瘍に対する治療(表4)

口腔腫瘍の専門外来での年間受診数は382例であった。平成20年4月～21年3月に入院治療を行った口腔腫瘍の手術件数は33件で、内訳を表4に示す。良性腫瘍ではエナメル上皮腫が6例と多く、歯牙腫5例、骨腫が3例にみられた。悪性腫瘍では、頬粘膜癌2例、上顎癌、舌癌が各1例であった。

●表4 入院で治療を行った口腔腫瘍

良性腫瘍(計29例)

エナメル上皮腫	6例
歯牙腫	5例
骨腫	3例
線維腫	1例
多形性腺腫	1例
角化嚢胞性歯原性腫瘍	1例
血管腫	1例
その他	11例

悪性腫瘍(計4例)

頬粘膜癌	2例
舌癌	1例
上顎癌	1例

2) 顎変形症に対する顎矯正外科(表5)

平成20年度の手術症例は31例で、手術件数の中で多数を占めている。対象では下顎前突症が多いが、非対称症例の割合も増加しており、下顎と上顎を同時に行う上下顎移動術も増加している。また、従来では骨移植を要したり、骨の移動に限界があった難治例に対して骨延長装置を用い、骨延長法も開始している。表5に過去31年間(昭和53年度～平成20年度)の顎変形症に対する顎矯正外科の施行実績とその術式別内訳を示す。

●表5 顎矯正外科手術数(件)(昭和53年度～平成20年度)

下顎枝矢状分割法	855
前歯部歯槽骨切り術	383
オトガイ形成術	210
Le Fort I型骨切り術	121
下顎枝垂直骨切り術	98
骨延長法	15
その他	69
計	1,751

3) 顎関節症に対する保存的/外科的治療

平成20年度も377名の顎関節症の新患が当科を受診しており、これらのうち多くは保存的に治療されている。一方、外科的治療の主体は関節鏡手術と関節円板切除術で、このうち関節鏡手術の10年成績の奏効率は88.6%と良好な成績を示している。平成20年の日本顎関節学会で、顎関節症関連疾患として「咀嚼筋腱、腱膜過形成症」が新しい概念の疾患としてとりあげられた。今後、同疾患の手術が増加すると考えられる。

4) 高度の歯槽堤萎縮症に対するインプラント治療

平成20年度のインプラント外来の受診患者数は780名、中央手術、日帰り手術件数合わせて60件あった。高度の歯槽堤萎縮症患者に対して、脛骨骨髓移植による低侵襲の骨再生治療を開始している。また、4種類のインプラントシステムを導入し、病診連携を積極的に推進している。

5) 着色歯に対するホワイトニング

平成20年1月より審美歯科の専門外来を新設した。すべての症例においてホームブリーチングによるホワイトニングを施行した。治療開始後約2週間で全例において色調の改善を認め、患者の満足が得られている。

■高度医療の取り組み・研究実績

平成20年度の通常の義歯による咀嚼機能回復の困難な高度の歯槽堤萎縮症に対するインプラント治療。

●インプラント義歯

基本施術料	0件
支持連結装置	1件
上部構造材料	0件
合計	1件

■臨床試験の実績

平成19年10月から放射線治療後の口腔乾燥症状を有する口腔癌患者10名を対象にピロカルピン塩酸塩を投与し調査臨床試験を行っている。

■地域医療に対する貢献

歯科医師会、医師会関連の教育的講演会 10件